



令和6年度 富山市立水橋西部小学校

天瀬っ子

学校だより 1 月



天瀬っ子はみんなファミリー

縦割り活動担当 白崎 弘宜

本校では、異学年交流の場として「ファミリー班」の活動を行っています。多くの学校では「縦割り班」という名称が使われる中、「ファミリー」と呼んでいます。今年度着任した私は、それはなぜなのだろうと不思議でした。

12月12日、図書委員会が「わくわく読書集会」を行いました。子供たちが一人一冊お気に入りの本を持参し、紹介し合う集会でした。集会が始まると、どの学年の子供も笑顔で楽しそうに持っている本のおもしろいところや好きな場面などを紹介したり、相手の説明を聞いた



りする姿が見られました。その活動の中で、下級生の説明をうなずきながら聞く上級生の姿や、安心して自分の伝えたいことを伝える下級生の姿が多く見られました。その姿を見て、まるで家族同士の関わり合いのようだと感じました。また、以前行われたファミリー会食では、和気あいあいと話しながら食事をしました。そのとき、こんな話が聞こえてきました。低学年の子供たちの「6年生の給食っ



て、こんなに量が多いんだね」「たくさん食べれるようにならなきゃ」という声でした。教室にいるのは、同学年の子供たちだけなので、給食の量の違いなど考えたこともなかったのでしょうか。高学年のお兄さん、お姉さんと給食を食べたことで、自分たちの今後の目標にもつながったのではないかと思います。

「縦割り」という言葉は、学年の垣根を越えた交流を指す一般的な表現ですが、少し固い印象を与

えるかもしれません。一方、「ファミリー」という言葉には、温かさや安心感、互いを支え合う姿勢が自然とイメージされます。私たち教員は、ファミリー班活動を通して、年齢や学年を超えて子供たちがお互いを「家族」のように思いやり、信頼関係を築けるようにと願っています。その中で、子供たちには人を思いやる心や、互いに支え合う力を身に付けてほしいと考えています。異学年の仲間との関わりでは、リーダーシップやコミュニケーション力、協調性といった、これからの社会を生き抜く上で欠かせない力が自然と育まれます。そして何より、ファミリー班活動で得た「自分は天瀬っ子の仲間の一

人として大切にされている」という感覚が、子供たちの自己肯定感を高めていくと考えます。最後に、ファミリー班という名前には、「学校をもう一つの家のような存在にしたい」という願いが込められていると私は思います。「天瀬っ子は、みんなファミリー」なのです。ファミリー活動を通して、子供たちが学び合い、支え合いながら成長していく姿をこれからも見守っていきたいと思います。